

日本色彩大鑑〈江戸の色〉の測色的分析

A Colorimetric Analysis of the "Collection of Japanese Colors—Edo Era"

小林 光夫
鄭 興蕾

電気通信大学情報工学科
電気通信大学情報工学科

Mituo Kobayasi
Xinglei Zheng

1 はじめに

近世の色を代表する江戸の色は、それより前の時代とは大きく違って、当時の民衆性を表す色であった。江戸時代の美の意識は、対象を直接賛美するものから、心の深い気配を感じさせるものになった。江戸の色の“美”は、その技術によるところも大きい。複雑な工程を経て作られた茶系や鼠系の色は類似色も多く、俗称として四十八茶百鼠とも呼ばれている。藍染が完成されたのも江戸期である。

全五巻からなる日本色彩大鑑 [1] は、時代ごとに、色の復元染色布を色票として収録した文献である。その第五巻にあたる〈江戸の色〉には、193種類の色票とその色名が載録されている。

本研究の目的は、上記の資料をもとに、江戸の色の特徴を見出すことである。なお、文献 [2] によれば、江戸期の色についてはいくつかの資料があるが、いずれを分析の対象としても大きな違いはないとのことであった。

2 分析の方法

以下の手順で分析を行った。

- 分光測色計 (ミノルタ CM-503i) を用いて色票の分光反射率を測定し、CIELAB, CIELUV, Munsell, NCS の各表色系の色値へ変換を行う (C 光・2° 視野)。
- 各表色系ごとに、全 193 色を色空間にプロットし、その分布を観察する。
- さらに、全 193 色を JIS の系統色名ごとに分類し、頻度を見る。
- 色名に同じ文字が含まれている色 (例えば、～茶など) どうしをグループにし、各グループの NCS 色分布図を作成する。さらに、茶、鼠など色数が多いものについては、色相、黒み、白み、色みに対する頻度を求める。

3 結果と考察

(1) 全 193 色の NCS 表色系における分布を、図 1 に示す。

- 色相-色み面の分布から、以下のことがわかる。黄と赤の間の色数が多いが、他は少ない。とくに、紫と青緑は非常に少ない。また、緑系の色はほとんど黄緑である。
- 色三角形の分布から、以下のことがわかる。全体的に暗く、白みの多い色はない。色みの多い色は少ない。黒みの多い色が多く、茶系と紺系の二つが目立つ、とくに、茶色は非常に多い。

(2) 図 2 は、全 193 色を JIS の系統色名の区分に従い分類したものである。基本色名 (hue) および修飾語 (tone) の二つの図から、色相が黄 (Y) と黄赤 (O) の色が非常に多く、修飾語トーンはくすんだ (dl) と暗い灰 (dg) が非常に多いことがわかる。

(3) 色名に含まれる文字で全色を分類したところ、同じ文字を含む色名は非常に多いことがわかった。5 種以上の色名に含まれる文字をあげると、表 1 のようであった。

文字	頻度	文字	頻度	文字	頻度
茶	72	紺	7	柿	6
鼠	14	藍	7	相伝	6
煤竹	14	樺	7	海松	5
鳶	10	藤	7	金	5
紫	9	梅	6	御納戸	5

表 1: 色名に現われる文字の頻度

茶、鼠、煤竹を含む色名は 99 あり、全色名の半数以上も占める (100 ではないのは、煤竹茶なる色が茶と煤竹双方に分類されているから)。

(4) 全色および茶、鼠を含む色の NCS 色相、黒み、白み、色みに対する頻度分布を図 3 に示す。黒み、白み、色みの分布については、全色に対する平均と標準偏差も付した。これらの図から、(1) で述べたことが定量的に確認される。

- 茶色のグループについては、色相 Y~Y80R の色が多い、G~Y の範囲の色も少なくない。黒みは 20~80 の範囲が、白みは -20~40 の範囲が主である。色相、黒み、白み、色みの分布が全色の分布と似ていることから、(1) で述べた全色の傾向は、ほとんど茶のグループによるものと認められる。
- 鼠色のグループについては、色みは 0~20 と少ない、したがって、色相は分散している。黒みは 40~80 の範囲であり、白みは 0~40 の範囲である。

4 おわりに

江戸時代の色の特徴を測色的に見出すことができた。色名に茶と鼠は多いことははじめから想像

されたが、上記によりこれが確認された。しかし、“四十八茶百鼠”の俗語に反し、鼠(14種)が茶(72種)より少ない、また、煤竹、鳶など茶に近い色を表す名前が鼠と同程度に多いこともわかった。

今後、他の資料との比較研究や、色名と感覚との関係も研究したいと思っている。

本研究にあたり、国立歴史民俗博物館の照井武彦教授、鈴木卓治助手には、資料の提供・測色などでお世話になりました。深く感謝いたします。

参考文献

- [1] 松本宗久：日本色彩大鑑，河出書房新社，1993。
- [2] 李 璟姫：復原染布でみる日本伝統色の色調，日本色彩学会誌，Vol.20，Suppl，pp.58-59(1996)。

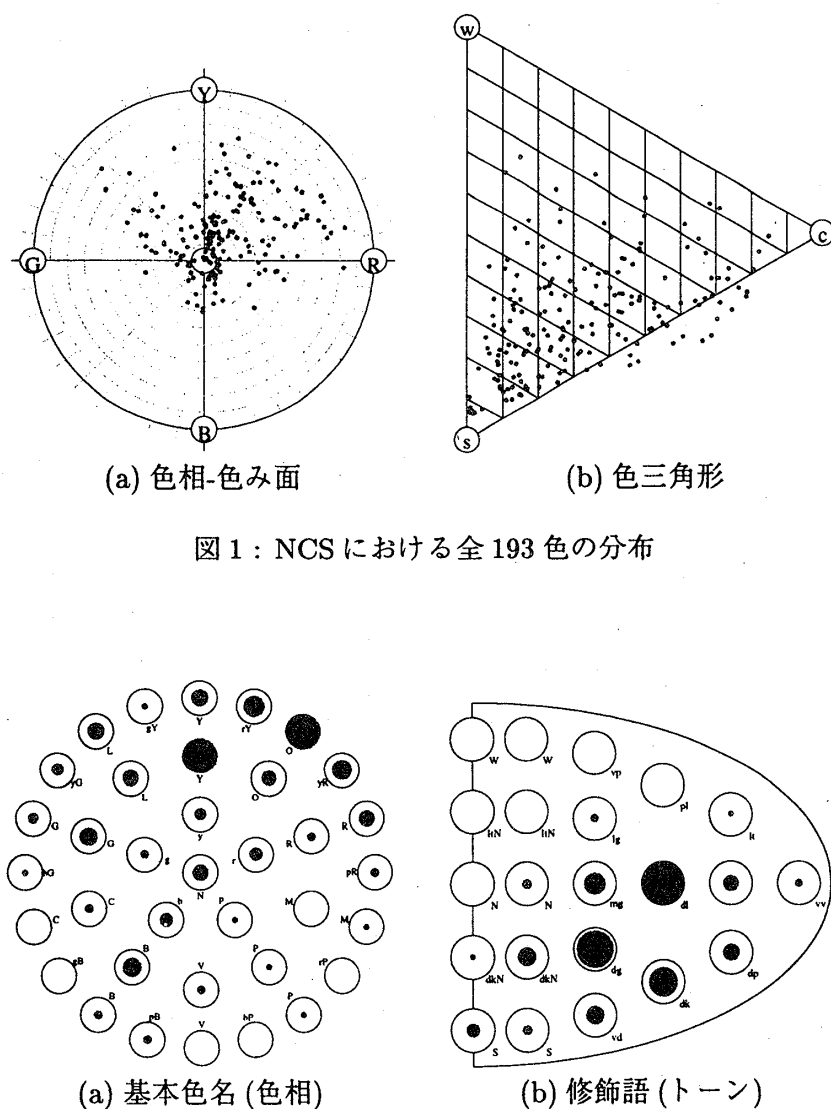


図 2：JIS 系統色名による全 193 色の分類

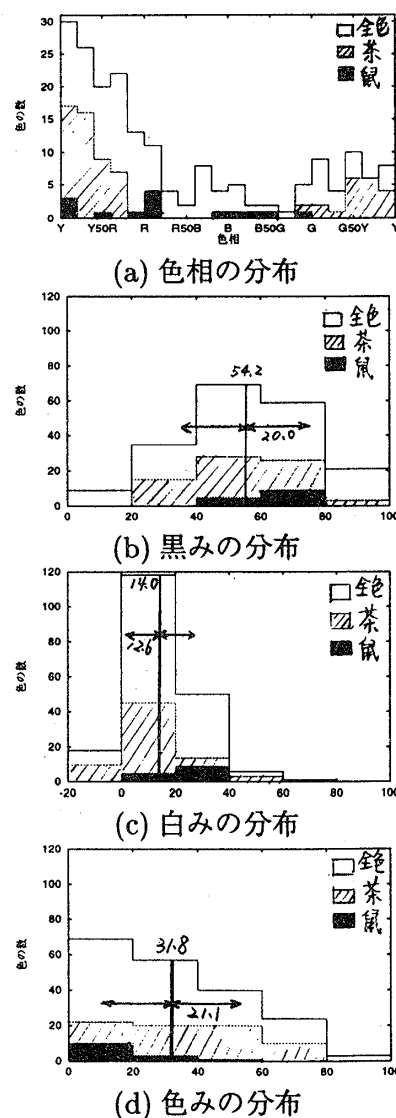


図 3：全色および茶，鼠の頻度分布